

問

問に答ふ

- 一、調和と結合との差違。
- 二、相補充して白となるべき色。
- 三、樹木の裏面迄も畫くといふは如何なるとなりや。
- 四、山の寫生をなす時、山頂高くして畫面に入り難き時は形を變へ低くして可なるや。尙景色畫には空なきものにてよきや。

石見 後藤百次

- 一、甲色と乙色との結合はよき(若くは悪しき)調和となると申やうに、結合とは原因で調和は結果ともいふことが出来ませう。場合によつては結合を抜いて、甲色と乙色とはよき調和であると申しても意味は通じます。
- 二、は色彩圓の反對に在る色を合せると白となるのです。そは學理上の話で我々の繪具で、目分量の合せ方では出来ません。本號の色彩論にも其事があります。
- 三、前に見える枝や葉計りてなく、後部にある枝や葉も透けて見えるのを描くといふ事で、それがなければ前の枝も出て來す樹に丸味を持たずが出来ます。物質寫生の時注意して研究すべきものです。
- 四、遠い山なら形を變へて低くしても

ふいでせうが、近い山は他の釣合を考へてからでなくば繪を毀して仕舞ひませう。風景畫に天色が必要といふもありませんから、其様な場合には山麓丈け描いたらいいでせう。

批評

彩畫帖

三宅克己著

石版水彩風景畫六枚下圖一枚説明書一册附

特長と思はるゝもの

- 一、圖柄簡單にして初學の臨本に適す。
- 二、印刷所を三度變ぜしといふ程ありて、製版印刷共に鮮にしてよく原畫の趣を傳ふ。
- 三、下圖及び説明付にて、普通畫帖と異なり親切を極む。

- 缺點と思はるゝもの
- 一、價高くして一般に普及しがたき事。(實質の上よりいへば廉價なれど)
- 二、一二を除くの外圖樣單調にして趣味乏しきと。
- 三、明るき圖柄のみにして幽玄なるものもなき事。

但從來發行されし此種のものうち第一位を占む。臨本に使用して些の害なきものと思ふ

水彩畫スケッチ 角田南山畫

下谷 由盛閣發兌

木版色刷風景六枚

●特長と思はるゝもの一つもなし。木版にて是迄に仕上しは大に感すべきなれどそは畢竟徒勞に過ぎず。

●缺點は澤山あり

- 一、輪廓の不整。
- 二、遠近法の間違ひ。
- 三、色彩の不調和。
- 四、不廉(比較的)

●思ふに此帖は水彩と稱するも日本畫家の筆になりしものなるべく、流行に連れたる營利的出版物にして、眞の水彩畫研究者には臨本は勿論參考ともならざるべし。

△新宿藤陵氏へ、英文の水彩畫の手引は適當と思ふもの心當り無之候。丸善書店には多少參り居候間直接御照會相成度候。

△吳西山氏へ、水彩畫の寫眞版は遠近の調子を見る爲めには無之候。専門家の描法、即ち畫面の統一、筆致の粗密なをいさゝか窺ふるを得べきかと存じ候、若し彩色なきを以て實景の寫眞に劣れりとするは墨繪の價値を知らざる暴論と可申候。但編者も寫眞版は好度希望に候。いづれ近き將來に於て一枚丈けば色彩版に致すべく候。

△三戸千葉氏へ、口繪に癩るゝと黒線を生ずとは何の原因にや解し難く候。殘本一々試み候へ共その事無之候。次に畫題の説明は可成記載する様に可致候。